

「主体的な学び」推進委員会通信

第2号

令和8(2026)年7月3日



小郡市教育委員会

三国中学校では、文部科学省「教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」の指定を受け、生徒の「主体的な学び」の推進を図るための1つの方策として、サキドリ研究を効果的に活用しています。サキドリ研究では、各教科で生まれた問いをもとに、個人の探究課題としてのテーマを設定し、秋には生徒の興味・関心に基づく主体的な探究活動に挑みます。今回は、探究活動のテーマ設定に向けて、授業から見いだした新たな問いを生む3年生理科の学びを、2時間構成で同時に公開していただきました。

三国中 第3学年(理科)「運動とエネルギー」学びのデザイナー(授業者)前原 一心・木村 勇太

授業デザインの意図

理科としてのねらい「位置エネルギーと運動エネルギーの互換性に着目して説明することができる」を目指しつつ、学びの中で生じた疑問や課題を新たな問いとして自ら見いだすため、通常合わせて100分の授業を、前半(前原)・後半(木村)に分け、参加者が1コマで全てを見られるように活動を仕組みました。

理科① デザイナー(授業者)前原先生



- (A)振り子が一回転するための杭の位置はどこ？
- (B)2つのコースを転がる球は、どちらが早い？
- (C)レールを飛び出す球は、どこまで上がる？

挑戦したい装置を選択して実験を行い、結果を基に考察しました。

理科② デザイナー(授業者)木村先生 ＜生徒の考察例＞

＜考察＞
下の位置で振り子が一回転したのは、運動エネルギーと位置エネルギーが関係していると考えられる。下のほうは位置エネルギーが減少し(0)運動エネルギーが増加する(大)ので振り子の勢いが強し、一回転できると考えた。

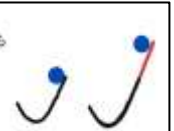
運動エネルギーについて考察した内容を友達と交流して「説明できそう」が増えました。



【互いに説明を聞き合う】

＜新たに生まれた問いの例＞

＜新たに生まれた問い＞
レールの長さが長くなったらボールの上がる高さも高くなるのか。



＜新たに生まれた問い＞
スキージャンプはなぜあんなに飛べるのか

授業者:木村 勇太 先生より

今回の提案授業を好機ととらえ、生徒の自己選択・自己決定とアウトプットを中心に据えた授業に挑戦しました。新たな問いや他教科とのつながりを見いだす生徒の姿も見られ、概念が広がり始めていることを実感しました。私自身も「楽しかった」という思いにつきます。今後も挑戦し続けたいと考えています。

市「主体的な学び」教育推進委員より

- 私も「問い」にこだわってみたいになりました。探究的な学びを深める子どもたちもわくわくし、教師もわくわくする授業を考えていきたいです。【市内小学校の先生】
- 自己調整を進めるためには、様々な方略を学ばせ、スキルを獲得させる必要があると感じました。校内でも共有していきたいと思っています。【市内中学校の先生】

福岡教育大学 生田 淳一教授 指導助言

問いには2種類あります。1つは「分からないから生まれる問い」、もう1つは「分かったからもっと知りたくなる問い」です。深い探究につながるのは後者で、一度理解した後に「本当にそうなのか」「別の場合はどうなるのか」と新たな問いが生まれることで、学びはさらに深まっていきます。また、問いは才能ではなく、身に付ける技能(スキル)です。よって、問いの作り方を教え、質問の型を学び、問いを繰り返し使う経験を積ませることが必要です。つまり、「子どもが自ら問いを見出し、学び続ける」ためには、教師による質の高い教材研究と、問いを生み出すスキルの育成、そして夢中になれる学習環境づくりが不可欠です。

味坂小学校で県重点課題研究指定校連絡協議会公開授業が7月1日にありました。令和8～9年度、文部科学省「教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」の指定校でもあるため、「STEAM教育」充実の視点である教科等横断的な学びと、「情報活用能力」の育成を意図した『ミニ探究』として、以下のような授業を公開していただきました。

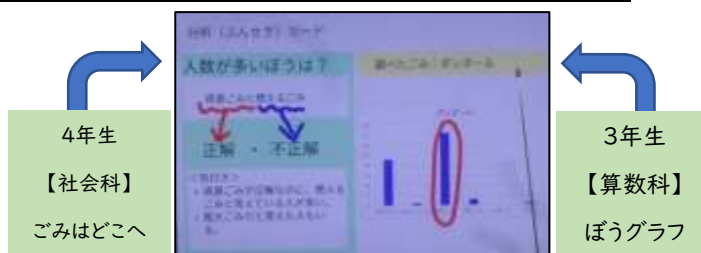
味坂小 第4学年(総合)「集めて、つないで、見えてくる～データ活用ミニ探究～」(授業者)伊藤 成海

単元計画	全8時間 本時(5/8)		
①課題の設定	ごみの分別の課題を見付け、仮説を立てる(1)	③整理・分析	データをグラフ化し、傾向を分析する(4)
②情報の収集	Google フォーム等でアンケートを実施する(2)		ねらい:グラフで比較・分析できること
④まとめ・表現	動画編集ソフトを活用し、動画を作成・発信する(1)		

めあて：ごみの分別を進めるために、どうすれば、ごみの分別の問題を見つけることができるだろう。



【ごみの分別方法のアンケートからグラフ分析の見通しをもつ】



教科等を横断して、分析(学び方)を学びました。

市「主体的な学び」推進委員・市一日留学体験研修に参加の先生方より

- 自分でグラフを作り、分析の仕方も身につけていくことで、様々な教科や場面でも活用できるようになるため、私も子どもたちにグラフの作成の仕方から教えてみたいと感じました。【市内小学校の先生】
- 本日参観させてもらったように、子どもたちに、探究するための資質能力を身につけさせるための学習活動を仕組んでいく必要性を感じました。【市内中学校の先生】
- データ活用ミニ探究、とても、興味深く見せていただきました。教科とつないで、どのように活用していくのか、また最終報告会も楽しみにしています。【市内一日留学体験の先生】

福岡県教育庁教育振興部 義務教育課より

- ◇ 毎年新しい挑戦が行われていることが素晴らしいと感じています。ミニ探究を積み重ねた結果として、児童が総合的な学習の時間でどのように変容したのかを示していくことが、今後重要になると思います。
- ◇ 味坂小学校は、教科等横断的な教育課程編成を研究主題としているので、今後、各教科等との関連を単元計画の中でより明確に示していただくことを期待しています。【板橋 昭典 主任指導主事】

専門委員 中村学園大学 山本 朋弘 教授 指導助言

「STEAM教育」については、総合的な学習の時間だけでなく、各教科等で学んだ見方・考え方を総合的に働かせることに意義があります。本日の授業では、3年生で学習した「ぼうグラフ」の学習内容を活用しながらデータ分析を行っており、教科で学んだことが探究活動で生かされる好事例でした。今後は、ミニ探究と、探究活動との接続をさらに整理し、研究成果として発信してほしいです。

小郡市 見城 俊昭 副市長

三国中学校「サキドリ研究」公開授業では、生徒が単にグループ討議で課題を探るというのではなく、生徒間で自由に疑問点や考えを提案し合い、その中で課題解決を導き出しており、必要に応じて教師が的確なアドバイス(ヒント・問い)を生徒に投げかけるという「主体的な学び」を具現化できている授業実践に感動しました。

味坂小学校「STEAM教育」では、この3年間、先ず地域に向いて地域実情を「知り」、2年目は地域の方々と共に「創る」という作業を経て、3年目に先生の問いに児童が意見を見出し、課題を追求して解決に導くという「主体的・対話的で深い学び」というアクティブ・ラーニングが実践されている授業に“感銘”しました。

いずれの授業も「実社会に新たな価値を生み出す子どもの育成」を志向しており、市職員の仕事の進め方と組織としての方針決定のあり方としても参考になりました。ありがとうございました。